

## 「研究科長賞」について

岩永恭雄 信州大学大学院教育学研究科長

今年度から、『信州大学教育学部紀要』が『信州大学教育学部研究論集』と名称を変え、その編集方針も一新されて、昨年創刊号が出版されました。編集委員会では、この論集を高い研究レベルのものにする努力がなされると共に、特色ある研究誌にするために、様々な企画を盛り込む方針を立てていますが、このたび第2号を発行するに当たって、研究科長賞を受賞した修士論文の内容に基づいた論文を掲載する企画が採用され、今後も毎年実行されることになりました。

信州大学教育学研究科における「研究科長賞」は2年前に設けられました。その年度の優秀な修士論文に授与されるもので、卒業式の後の謝恩会の席で授賞式が行われます。過去2回の受賞者と修士論文は下記の通りです。

・2007年度 林 優希（学校教育専攻障害児教育専修）

『数学的スキルと注意記憶・空間・算数的感度との関係性に関する研究—算数困難児への支援方針の検討』

・2008年度 岡村ゆかり（教科教育専攻社会科教育専修）

『法教育における「積み重ね」授業プロセスの理論と実践』

本研究論集第2号には、2008年度の研究科長賞の受賞論文を基に新たに作成された学術論文が掲載されています。また、本人が記載した学位論文要旨からその一部を以下に記すことにします。

本研究は、わが国における法教育の現状とその課題について分析し、課題解決のための学習プランを「積み重ね」授業プロセスの理論として提示するものである。また後半では、この理論に基づく授業実践プログラム及び授業案を作成し、小・中学校課程における法教育の実践及び普及のための教材開発を試みた。